

第4回明石市工場緑地のあり方検討会 議事概要

日時：2021年(令和3年)10月7日(木) 15:00～17:00

場所：明石市役所本庁舎 806会議室

発言者	内容
1 開会	
事務局	<p>本日は第4回ということで、第3回の3月から約半年後の開催ということでございます。当初5月に第4回を開催する予定でしたが、全庁を挙げて感染対策に取り組む必要性があったこと、また緊急事態宣言等の状況を踏まえまして、本日まで延期させていただいておりますので、この点委員の皆様におかれましては、ご了承いただきたいと考えております。</p> <p>本日は、市長も事務局として出席しております。</p>
市長	<p>第1回の時もお願ひ申し上げましたが、忌憚のない意見交換をしていただき、一定の方向性をとお願ひしております。本日もよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>私も、何かご質問、ご意見等がございましたら対応させていただきたいと思ひます。</p>
2 説明事項	
会長	<p>さて、前回3月の時点まで、工場緑地をテーマに話をさせていただきました。ひとえに工場緑地といっても緑地の面から考えるということ。それから、工場がもたらす雇用や経済といった面から考える。さらに広く、防災や地域づくりなど多様な意見を承りながら、工場緑地をめぐる課題ということに一定理解が進んだと思ひます。</p> <p>その中で、市民の意見を聞くべきではないかという意見を受けまして、広報あかし4月15日号に意見募集の広報を出させていただきました。本日の資料に記載のとおり、600件余りの回答をいただきました。この点から市民の関心が高いことを改めて感じました。</p>
事務局	<p>事務局より下記について資料説明。</p> <p>(1) 検討会におけるこれまでの議論</p> <p>(2) 市民意見募集結果</p>
3 審議事項	
H委員	<p>市民意見を募集する時に、「工場緑地を緩和してほしい」という請願の採択を受けて緩和をしようという動きなので、市民意見には「緩和してほしい」という意見が半分以上あるものだと思ひていました。私が数えた限りでは、この中に「緩和してほしい」という意見は61件、「緩和しないで」という意見は68件ありました。友達に工場緑地のことをどう思うか聞くと「工場緑地って何？」という答えが返ってきて、これが普通の市民の意見だと思ひていました。その中で、「緩和してほしい」という意見と同数ぐらいの「緩和しないで」という意見が出てきているということは今の住みよい明石を維持してほしいという気持ちが表れているのではないかと思ひます。</p> <p>また、「緩和してほしい」という意見の中にも条件を付けたらどうかという意見も多</p>

発言者	内容
	<p>数ありました。例えば、屋上緑地にして緩和してほしいとか、施設を作る時に条件を付けた上で緩和してほしいといった意見が多くあったように思います。</p> <p>その他の意見は、明石全体がこういう方向に進んでいる中で、工場の緑を無くしてしまってもいいんだろうかなど、緩和する・緩和しないは関係なく、明石市全体の像みたいなものを語られている意見が多くあったと思います。それを考えると、近隣都市の加古川市や高砂市、播磨町が緩和しているから横並びで明石も緩和することに凄く違和感を感じています。この検討会でも地区で決めて緩和するというような話がありましたが、緩和するのであれば、条例で条件を決めたら良いのではないかと思います。例えば、この企業はこういう風にしたから緑地面積を緩和してほしいという申請が出て、一件ずつ個別に審査して緩和を認める、認めないを判断しても良いのではないかと思います。全面的に緩和するのではなく、建て替える期間だけ緩和する、あるいは新しく建てる工場を屋上緑地や壁面緑化にするからその分を認めてくださいとか、個別にみていったら良いと思います。</p>
会長	<p>はっきりと「緩和に賛成です」という意見よりも、条件を付ける、あるいは全体の緑を増やしてほしいという意見が多かったと思います。</p> <p>そういう意味では、市民も制限なく緩和してほしいというわけではない。あるいは、絶対緩和が駄目だというわけでもない、委員の多くも感じ取られたのではないかと思います。</p> <p>その上で、一律ではない緩和の方法があり得るのではないかと。個別に対応することも考えられるのではないかと提案がありました。他の自治体等でそういった事例はありますか。</p>
事務局	<p>他市の例としては、一定区域を決めて、条例で率を定める制度と理解しています。ですから、この企業だけ何パーセント、この期間だけ何パーセントという条例の定めは制度上難しいです。</p>
会長	<p>難しいというのは、できないというわけではないのですか。</p>
事務局	<p>制度上できないということになります。</p>
H 委員	<p>条件付き緩和とする条例にして、その条件に合致している企業は緩和を認めるということはできないですか。</p>
会長	<p>申請いただいて内容をチェックするという事後チェック方式という方法がありますが、そうではなく、条件を先に並べておいてこれをクリアしたら緩和できるという事前チェック方式の方法であればどうですか。</p>
事務局	<p>他市の例でも緩和する代わりに条件を付けている市があります。それも条例に書くのか、あるいは要綱的なガイドラインに規定するのは、各市取扱が異なるところです。また、一切そういった条件を付さずに緩和している団体もあります。</p>
A 委員	<p>市民意見は、どんな感じのものが来るのかと思っていました。工場の中の緑地の話と地域全体の緑地の話が混ざっているんだろうと。いろいろな方に工場緑地の話をした時、工場緑地に対して特段のこだわりや認識はなく、聞かれたときに漫然と「緑は</p>

発言者	内容
	<p>なくなるよりかはあった方がいいかな」という意見が非常に多いだろうと思っています。そういう傾向からしても、「緩和してほしい」という意見が少ないという感覚よりもむしろ逆で、「緩和するな」という意見がもっと多いだろうなと思っていました。実際に、家族が工場で働いている方は、工場の中の厳しい実情などを分かっているのに、働く人の立場として、働く環境をもう少し良くしてほしいという話はこの中にも出てきているという気がしています。</p> <p>それから、年代別で見ても、若い方や子育て中の方、家のローンがある方、子どもにお金がかかる方は働く場所がなくなることは非常に厳しいと感じていると思います。コロナ禍で働く場所が近所にあることの幸せが余計に見直されているのではないかと思います。</p> <p>そういう中、工場が出て行くことになったらどうするのかという意見もあると思います。</p>
会長	<p>おそらく委員の中にも、緩和をもう少し進めるべきだという思いと、緩和を押さえたいという思いがあって、市民の方も同じような意見ではないかと思います。</p>
E 委員	<p>実際に、「緑が多いほうがよろしいか」、「緩和によって緑を減らすのがいいんですか」と聞かれると、多い方が良いに決まっている。ただこれも聞き方にもよるとは思います。実際に、市内全体の緑地に対して、工場緑地が占める割合が4%、その部分の緩和をどうしようかというところまで市民が理解されているのかと思います。私の印象としては、案外、緩和を容認する意見が多かったなという感覚です。もちろん、その意見の中には工場関係者がかなり意見を出されたのではないかと思います。工場に隣接していないところの市民からすれば、少し実感できていないと思います。</p> <p>次に、CO2の削減、これは皆の共通している願いであると思います。工場緑地の緩和の部分とCO2の削減効果ということを考えますと、設備の改善によるCO2の削減の方がはるかに効果が大きいです。あるいは周辺環境との調和という面から考えると、工場の老朽化あるいは設備の改善に直結していくほうがより効果が上がるのではないかと考えたところです。</p>
D 委員	<p>工場緑地の問題を考える時に、明石の緑地の4%であるという話が出ましたが、4%というのは、明石の里山や農地などを全部含めた緑地の4%ということになります。</p> <p>最近では都市緑地という概念が強調されるようになってきました。簡単に言えば、市街地の緑地ということですが、明石の航空写真を見ると、市街地の緑地が他の市に比べて少ないということと、明石では工場緑地が大きな割合を占めており、これは無視できないと思います。</p> <p>工場緑地率の20%というのは昔の公害問題の対策として出てきて、それは解決したから緩和してもいいじゃないかという議論がありますが、都市緑地の環境保全機能というものは、認識が変わってきています。初めの頃は防災面などが強調されてきましたが、最近は生物多様性、ヒートアイランド現象の緩和も注目されてきていて、CO2の吸収機能もクローズアップされてきている状況です。近隣都市が緩和しているから</p>

発言者	内容
	<p>緩和してもいいのではという議論はそういう意味では成り立たず、いろんな視点から工場緑地を含む都市緑地をどうしていくのかと考えることが求められています。</p> <p>緑地率 20%というのが建替などの障害になっていることはよく理解できますが、工場緑地が企業にとってお荷物のような認識は違うのではないかと。むしろ、工場緑地を最大限生かすことを企業も行政も考えないといけない。明石市の市街地の緑地には公園緑地もあれば工場緑地もあり、工場緑地を企業だけに責任を負わせるのではなく、行政や市民などみんなの共通の認識の上で明石の都市緑地をどうしていくのかという視点で考えていくべきかと思います。</p>
会長	<p>都市緑地というのは、都市にとっての緑地という意味でよろしいですか。何か定義がありますか。</p>
D 委員	<p>厳密な定義は見当たらないのですが、農地を省くということが国の都市緑地法に書いてあります。里山のような周辺の山林はその繋がりが大事で役割が違うということも書かれています。</p>
会長	<p>ご指摘の点は都市の緑地という位置付けから工場緑地を検討してみるとということ、もう少し公共性が強くなり、単に企業だけで考えるべきものではないということによろしいですか。</p>
D 委員	<p>はい。明石市の緑地政策の中で、今まであまり認識されてこなかった工場緑地が今回クローズアップされているので、市の今後の緑地政策に活かしていく方向で考えるべきものだと思います。ただ、その負担を企業だけに押し付けてはいけないというのがもちろん大前提です。都市緑地としての工場緑地の重要性を考えていただきたいと思います。</p>
F 委員	<p>まず1点目に、これまで3回の検討会を重ねて、工場緑地の緩和については概ね合意が取れていると思います。これまでの意見の中には、明石市全体の緑地の問題と工場緑地とを混同している状況が多々見受けられました。</p> <p>次に2点目に、SDGs いわゆる持続可能な開発目標においての3本の柱、社会・環境・経済ですが、これは環境が第一と考えるのではないと思います。3本とも大事です。</p> <p>3点目に、工場緑地は明石市内の緑地の4%で、環境問題は残る市内の緑地96%の中で検討すべきだと思います。</p> <p>4点目に、工場緑地の規制は、今から半世紀前の公害問題が契機になって工場立地法により規制されたものです。公害問題は全国の企業の努力によってほぼ解消しており、その裏付けとして工場立地法が改正され、各自治体の条例改正で緩和ができることになりました。近隣市町では、全てそのように改正されて、明石市だけが20%です。</p> <p>5点目に、昨年、明石市内の企業側から、強い緩和の請願が出されて議会において大多数の賛成で議決しています。あえて言いたいのは、それぞれの地域の市民の代表である組織の議会で議決されたということは最重要視すべきだと思います。</p> <p>6点目に、市民意見を全部読みますと、従業員の職場環境の改善と設備投資等の対応が迫っているという切実な声が多くありました。それと建設的な市民の意見として、</p>

発言者	内容
	<p>緑地率を緩和することにより工場の設備を更新し、よりよい製品を作り出し、また、それとともに働く人たちの労働環境を改善し、熱中症対策や防火対策など、周辺住民への騒音・異臭の防止にすごく期待でき、また新しい技術を工場見学等で体験できるようにし、子どもたちへの将来創造にも活かしていける。また、地域雇用確保で税金にもつながるので、緑地率の緩和を是非してほしいという意見がありました。</p> <p>7点目に、工場立地法における緑地率は近隣市と同じ緩和率とし、あわせて二見人工島は別に地域未来投資促進法に基づいて播磨町と同じく1%に緩和することを求めたいと思います。</p> <p>8点目に、これまでの検討会で議論は出尽くしたと考えます。会長におかれては、結論を一本にまとめようとせず、それぞれの意見を最大限尊重し、両論併記にして、この第4回で締めくくっていただきたいと思っています。</p>
C委員	<p>SDGsに関する検討をいろいろ進めている中で、市として数値目標みたいなものがまだ出てきていません。</p> <p>SDGsについて、個人的には環境が一番ベースになってくる大切なものだと思います。その中で、CO2削減という目標が決まってくると思うんですが、ゴミの問題や緑地・緑化の問題、再エネの問題などいろんな方面へ展開をしていかなければなりません。それを担うのは行政であり、市民であり、事業者になると思いますが、数値目標がまだ見えてこないというのが、個人的には考えをまとめるに当たってクリアにならない原因だと感じています。だから、全体の緑地に対して工場緑地は4%に過ぎないと思うと少ないという感じにもなるし、大久保北部の緑のことを聞けばこれは大事にしないとイケないと思います。個人的にはまだ判断しかねています。</p>
会長	<p>ある程度大きな数値目標があって、それに対して積み上げていったらこうなりますという数字が出ているわけではない。特に、環境というのは未来形の部分が一つあって、これからもいろんな技術開発が進んでいくとどうなるか分からないことが結構あります。</p> <p>確かに積み上げていったらこうなりますというSDGsが求めているムーンショットと言われる、ある種目標を決めた上でバックキャストしていくこととは違うのかなと思います。</p>
副会長	<p>まず、大きく考えれば明石市のサステナビリティ、明石市という社会、自治体、地域が持続していくためにはどうしていったらいいのかを考える必要があると思います。つまり、全体として少し広い視点を持つことが大切だと思います。例えば、市民の意見にもありましたし、以前も申し上げましたが、工場緑地を緩和するのであれば、今後、新しくできる建物の環境効率を非常に良いものにするすることで、二酸化炭素の排出量を減らすことが可能になってくるのではないかと思います。緑地のパーセントという数字の話だけではなく、全体的にさらに明石の持続可能性が上がるような取組をしていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>広い視点というのは、緑をどうするのかという視点が一つあります。次に地域コミ</p>

発言者	内容
	<p>ユニティがさらに強くなるというような方向性、持って行き方が必要ではないかと思いました。それから、SDGsの一つの特徴として、1つ取組をしたときに、いろいろな目標に影響してくるということがあります。ですからそういった観点からも考えてみてはどうかと思います。</p> <p>生物多様性のことが出てきましたので、一つ紹介したいと思います。それは、NBS (Nature-based solutions) という考え方ですが、例えば、グリーンインフラも該当します。自然や生物多様性を使って、社会課題を解決していこうという事ですが、実は、国際的には30by30 (サーティー・バイ・サーティー) という考え方があります。これは2030年までに陸域、海域の自然環境エリアを30%保全しようという考え方で、当時の小泉環境大臣が日本もこれをやりますとおっしゃいました。30%を環境保護地区にするというとなーそんなにも思うかもしれませんが、実はよく言われる自然保護区みたいなものの他に、その他の効果的なエリアがあります。それを加えて30%ですが、それはどういうものかというところ、鎮守の森、今、自然保護区になっていない部分についてもカウントしていくという考え方です。そういう視点で、工場エリアの緑地はどうするか。それから、市内全体の緑地をどうするかということをし少し広い視点を持った上で切り分けて考える必要があるのではないかと。例えば、住宅がなくて工場ばかりのところの緑地を緩和するのとかどうかという話と、市内全体の緑地あるいはその他の効果的なエリアをどうしていくかという、OECDといいます、それをどうしていくのかという話を分けて考えた方が、話が進むのではないかと思いました。それから、工場緑地の話と市街地の緑地の話は少し違うのではないかと思います。そちらも少し整理して考えていけばいいのではないかと思いました。</p>
会長	<p>非常に大きな視点でグローバルな話も含めて説明いただきました。</p> <p>工場ばかりのところ、ここで言う人工島と市内とは切り離して考えてはどうかという意見です。</p>
B 委員	<p>私の立場からすると、企業側の人間なので緩和していただくと非常に助かりますし、工場の将来に向けての経営も幅広く考えられるようになるので、非常に助かる嬉しい話です。それは企業側の人間として当たり前の話です。</p> <p>それは少し置いて、今回のアンケートを読ませてもらったり、皆さんの話を伺うと、明石市全体のランドデザインというか、緑だけではなく、自然は川も海も含めて考える良い機会になったのかなと考えています。</p> <p>それとゼロカーボンという話もありますが、明石市にお住まいの方が非常に良いまちだという評価がない限り、いくらゼロカーボンをと叫んでも仕方がないのかなと思いました。</p>
G 委員	<p>アンケートの感想としては、緑の多いまちであってほしいというところは共通の理解であり、SDGsを推進する都市として、おかしくないような決定をしてほしいというところが、市民の考えではないのかと思います。</p> <p>一方で、工場の建替の問題が差し迫っているということで、前回の会議でも出てい</p>

発言者	内容
	<p>たように、面積を下げてでも緑の量や質が増していくような、効率を上げていく話があったように、面積を下げてでもその代わりに増やせる部分を考えていき、条例で定めるなど、方向付けしていくことが大事だと思っています。市民としては市全体が緑豊かな場所であってほしい、住みやすいまちであってほしいというところだと思います。</p> <p>一方で、検討会はあくまで工場の緑地について検討する場であり、そこは棲み分けて考えていく必要があるのかと思います。市民からも下げた代わりに増やすという意見も出ているところから、市全体の緑についてどこで検討していくのか、立ち位置みたいなのも定めていくことができれば、本検討会の中ではあくまで工場緑地について考えていけばいいのかなと思いますし、先に進めていくことができるのではないかと考えました。</p>
H 委員	<p>もう一度市民団体から要望書が出ていますが、グリーンリカバリーに配慮してほしいという子育て世代の若いお母さんたちの話、せっかく明石に転入してきて子どもを育てていて機嫌よく自然を満喫しながら育てている子どもさんのお母さんから緑をこれ以上なくさないでほしいという悲痛な声もあります。</p> <p>子育てをしている現役世代の一番忙しい人たちがここに意見を出してくるという事は本当に緑を大切にしてほしいからだと思います。</p> <p>広報紙を見ても工場緑地が何のことか分からないと言って意見を書かない人がほとんどの中で、子育てにやさしい明石を明石市が目標として掲げているのであれば、せっかく明石市に移ってきて明石を気に入っている人、明石が好きって言う人が書いてくれた意見も汲み取っていただきたいと思います。</p>
会長	<p>緑は生活に密接している。生活の質を重視している明石市にとっては、緑は重要ではないかという意見だと思います。</p>
事務局	<p>審議項目(3) 最近の二見人工島における企業の動向について説明します。</p> <p>概要としては、二見人工島にある企業1社から、製造プラント設備の工場増設を検討しているため、現行の緑地率が20%の中、約5%程度の緑地率の緩和が必要であり、ここ数か月の間には、二見人工島に工場を増設するか否かの経営判断を行うと聞いています。ついては、二見人工島の緑地を緩和してほしいとの要望を受けているところです。</p> <p>併せて、当該企業からは、緑地率が緩和され、工場を増設する場合には、緑地が減少する代替措置として、市の事業の公園整備の一定の負担や、その企業の特性を活かした地域貢献の取組に協力したいとの話を伺っています。</p> <p>なお、工場が増設された場合、本市の水道料金収入が大きく増加する見込みとなっています。</p>
会長	<p>二見人工島における企業動向として実際に増設の話も出てきているということです。また、企業からの提案としては、単に減らすだけではなく、市民のためになるようなことを考えたいということで、企業側もある程度配慮したいということは重要なところではないかと思っています。</p>

発言者	内容
	<p>皆さんの話や提案を聞きながら、また、個別指定は現実的には難しいこと、地域指定はできることなどを踏まえると、人工島とそれ以外を分けて考えてはどうかと考えます。</p> <p>皆さんの発言のとおり、市全体を考えていかなければいけません、一方、ここで議論しなければいけないことは工場緑地のことです。ですから、二見人工島は工業専用地域なので、その地域を指定することで一定の緩和の方向性をしっかり示すことはできないだろうか。それによって先ほどの説明のとおり、企業の増設や雇用の確保を可能にする。</p> <p>一方、ただ緩和するだけではなく、事務局からの説明では、企業から地域貢献とい提案もあったということなので、こういったことができるのであれば人工島の緩和については、十分、考えられるのではないかと考えています。</p> <p>例えば二見人工島を地域指定して緩和することは可能ですか。</p>
事務局	二見の人工島だけを緩和することが可能です。
A 委員	二見の人工島を緩和する事は簡単なことで問題ないと思います。ただ、二見だけ緩和されて他の地区がほったらかしになるということを非常に危惧しています。二見はもちろん緩和して、他の地域についても何とかしていただかないと。
F 委員	二見人工島と明石市内はどっちが先かという問題ではないと思っています。今話が出ているように人工島という特別なところではなく、一番困っているのは市内全体の工場だと思います。人工島以外だけ長引くことは決してあってはならないと個人的な意見として思います。人工島以外の他の地域も全体的に進めていかないといけないと思っています。
H 委員	市民意見の中に、二見人工島は市民の憩いの場でもあるという表現がありました。確か、あそこにはプールやテニスコート、運動場があって、市民が利用するところであり、もっと緑を整備してほしいとジョギングをされている方の意見だったと思います。地区で指定するのではなく、緩和する条件を付けて、条件が揃えば緩和するというのを条例で決めれば、何も人工島だけではなく市内の工場も建替ができていくのではないかと考えています。
会長	工場緑地以外の公園部分の緑を減らすわけではありません。公園の緑地はかなり確保されているということでよろしいですか。
事務局	二見の海に人工島があり、その中には工場もありますが、海浜プールやグラウンド、野球場などの施設が公園としてあります。
F 委員	海浜プールや野球場、広場、遊具があります。ただ、今問題になっているのは、工場の中の緑地ですが、特に工場の苦情は聞いていません。
会長	工場と市民の憩いの場としてのミティゲーションとしての緑地という意味でいくならば、今緩和することによって先ほど懸念されたことが起きますか。
A 委員	企業側は、緑地は必要ないとは思っていません。これまでも話したように事業所税を毎年 10 億円程度納めています。10 年経つと 100 億円になるわけですが、これをそ

発言者	内容
	それぞれの地域において有効に役立てていただきたいと思います。
会長	税金でもって人工島の市民の憩いの場を整備することに使うことができるのではないかという意見です。それは従業員とつてもすごくメリットがあることだと思います。
B 委員	確かに市民意見の中に、二見の公園の緑や街路樹の話が出ていました。おそらく街路樹や公園の樹木を剪定をしてきちんと整備していく、夜は少し怖い感じがあるので街灯も整備するとずいぶん使いやすい公園になるだろうということが書いてありますが、工場の緑地については触れていなかったと思います。
会長	<p>気になったのは、緩和したときに悪臭などが漏れないように距離を空けたり、緩和することによってそういった影響が大きくなるのかどうかです。</p> <p>公害が多い時代に工場と周辺地域を分けるためのミティゲーションとしてのものですが、それを減らした場合に、市民の憩いの場としての公園にすごく影響が出るようなものですか。</p>
B 委員	いえいえ。人工島に限って言えば、公園の部分とそれぞれの企業が立地している部分とは、幅広い道路で区切られてるので、特に大きな影響を与える事はないと思います。また、緩和されても敷地内を全て工場にするかというところというわけではありません。やはり企業のイメージがありますから、それなりの緑地を残して見栄えの良い工場を作っておかないと、人が来ないし、お客さんが来てもなんやこの工場という感じになりますから、工場側もそういった観点も考えています。
会長	分かりました。緩和する場合においても、ミティゲーションとしての機能も持っておかなければならないと思いますので、そこはガイドラインで何らか縛らなければいけないと思います。
D 委員	<p>私は、先ほどの企業からの要望に対して、20%を15%に緩和することには反対しません。ただ、播磨町側と同じ1%にするというのは暴論だと思います。15%であれば、色々と細かい事は出てくるでしょうが、それは率直にありかなと思います。</p> <p>その場合に、人工島だから緩和するという形で決めるかどうかです。人工島は確かに土地の目的としては工業専用地域ですが、CO2の吸収や生物多様性という観点からは人工島だからといって異なるわけではない。その問題の議論を整理せずにいきなり人工島は緩和しましょうというのはどうなのかと思います。</p>
会長	人工島だから別のルールというわけではないと思いますので、全体を考えていかないとはいけません。
副会長	<p>緩和するのでしたら、工場のところであっても緩和したことによってさらに良くなると思います。昔は、環境配慮がコストで、利益が減るという形でしたが、今は環境配慮をチャンスだと考える企業が伸びる時代になってきていると思います。</p> <p>景観に配慮して、皆さんが目につくところに上手に緑化をしていく、あるいは少し開かれた形で緑化をしていくと今までよりも良くなり、周りの地域の方も納得してくださるのではないかと思います。</p> <p>先ほど私が切り分けて考えたほうが良いのではないかと申し上げたのは、その方が</p>

発言者	内容
	<p>議論が進むからと思ったからで、決して市内は何もしなくて良いということで提案したわけではありません。もし、市内の工場のことを考えるなら、かなりいろいろなことを考えて議論が複雑になるかと思ったので、切り分けたいかと思いました。他のところは手付かずでいいと思っているわけではありません。</p> <p>景観に配慮した、緑化を進めている企業を魅力あるまちづくりへの貢献ということで表彰している事例があったかと思いますが、こんな素敵な工場の緑化があると明石市が表彰する制度も良いかと思います。</p> <p>先ほど、増設する予定があり、その代わりに公園の整備という話がありました。計算の仕方がいろいろあるかと思いますが、一般的に言われているのは、生物多様性なり自然なりというのを工場の増設や改築、開発するなど減らしてしまったときに、オフセットと言いますが、相殺するようにプラスになるようなことを別のところでやる。それで±0になるのをNo Net Loss（ノー・ネット・ロス）と言います。最近では、一歩進んでNet positive impact（ネット・ポジティブ・インパクト）ということで、±0ではなくプラスになるようなことをやって企業はアピールしています。ノー・ネット・ロスではなくて、もう少し積極的にしていただくことで、すごく素敵なデザインの工場が明石にできたら良いと思います。</p>
会長	<p>ネット・ポジティブ・インパクトというのはいい言葉ですね。さきほど、緑には公共財的なものがあるという観点からいけば、行政も関わらないといけないという発言がありました。表彰という話もありましたが、企業と明石がお金を出して作るというような、それによってより良い環境を作っていくということができるのであれば、都市緑地の考え方として、公共性を持っているということアピールできるのではないかと思います。</p>
副会長	<p>サステナビリティが何かというと、工場が出ていくと税収が減ります。明石市にとってあまり良いことではないと思うので、そこを考慮して、先行投資的に明石市が支援をするような形で明石全体の自然環境の価値がもっと上がっていけばサステナビリティにつながります。経済も社会も持続するという形になると思いました。今は皆さん環境のことに目がいますし、やったらやっただけの投資、金融もESD投資ということでやりやすいようになっています。</p>
会長	<p>ネット・ポジティブ・インパクトというのは市の共通する原則みたいなプライマリーという形にさせていただき、それがまず提供できればと思います。その上で、もし市内全体についても緩和の方向になり、一つの原則を定めるような形にするならば、緑は生活のためになるところ、そもそも都市緑地はもう少し公共性があるものだから行政も関わらないといけないということも整合性を持つのではないかと思います。</p>
G 委員	<p>議論を進めていくために、まずは人工島のようなやりやすいところからしていくということが進めていきやすいのかなと思いますが、全体を考えていかないといけません。工場の建替が差し迫っているところも市内の中にあると聞いていますので、最終</p>

発言者	内容
	<p>的には全体で話し合っていくべきだと思います。まずは、進めていきやすいところからできれば良いのではないかと思います。下げる方向で良いと思いますが、面積を下げるかどうかというところだけの議論だけではなく、下げるのであれば、質を高めていくか効率を上げていくといったところがセットでできたらいいと思います。</p> <p>私は子どもがいる一市民としては、二見の人工島には子どもを連れてプールや公園によく行きます。その中では、人工島の公園部分は緑が多いという印象を持っています。そういった意味では、人工島は市民の憩いの場になっているところだと思いますが、そこは工場とは別の部分で、一市民のイメージとしては工場の部分は閉鎖されていて公園とは別の建物といったイメージなので、新しい開かれた工場に変わっていくことのほうがトータルの人工島に対するイメージも良くなっていくのではないかと思います。</p>
E 委員	<p>二見人工島は居住空間ではない。私がずっと思っていたのは、居住空間の環境改善に直結していく。これが工場緑地の緩和とセットで考えていたものですから、市内全体で考えていくべきと思っています。</p>
会長	<p>明石市で幅広く地球環境全体という中で、原則として、ネット・ポジティブ・インパクトという考え方を全体適用する。</p> <p>一方、人工島は居住地域ではないので、住民との関わりでまちづくりとは異なっている。それに対して、市街地は当然住民がいる。市街地の工場にある緑地の緩和は、市全体のCO2排出を考えたネット・ポジティブ・インパクトだけではないプラスの部分としてまちづくりや市民の合意、更なる地域貢献などとあわせて考えていく。このような方向性で考えたいと思っています。</p> <p>二見の人工島については、ある程度一律のパーセンテージを出す、その上で、市内については、個別は難しいですが、条件をある程度クリアしていけば、例えば10%はできるかもしれない。例えば、住民合意は必ず要る、あるいは、市民や地域に対してこういう貢献があるといった条件があるのかもしれない。</p> <p>何かしらの条件をクリアする形で、市内についてはCO2だけでなくことも含めた条件、人工島については基本的にはCO2や緑地面積を中心にネット・ポジティブ・インパクトの考え方を原則としていく。市内については、プラス市民との関わりというものを条件にして緩和していくということであればある程度動きやすいかと思っています。</p>
D 委員	<p>今の会長のまとめ方に基本的に賛成ですが、緩和が前面に出て明石市が環境を軽視しているというメッセージになってはいけないので、明石市は住民のためあるいは企業、経済のためにもしっかりと環境を大切にしているんだというようなメッセージが大切だと思います。明石のグランドデザインという言葉が出ましたが、SDGsのプランも検討されているようですので、工場緑地の問題もその中に位置づけていくことが望ましいと思います。</p>
会長	<p>広い視点が必要だと思います。</p>
A 委員	<p>ゆるやかな地域の協力協定みたいなものは比較的合意できるだろうという気がしま</p>

発言者	内容
	<p>す。企業としては、事業所税として年間 10 億 5 千万円払っているのを何とか使えば良いのではないかと一言言いたいところだと思います。何度も言いますが、人工島が先行するために、人工島以外のところがほったらかしにされる、切り捨てられるという不安感があります。長いこと明石の工場のこの状況をほったらかしにしたためにその思いがもの凄く強いので、同じタイミングで同じように緩和していただくということがベストだと思います。</p> <p>そうでないと逆のメッセージになるとと思います。市内の人工島以外のところには出て行ってほしいというメッセージになってしまうこともあるでしょう。何もする気ないんちゃうという話も工場関係者から聞きます。それなら他所を探すよと。実際に、小野の工業団地や県で整備が予定されている三木の方を検討されている。実際問題、加古川まで行ったら事業所税を払わなくても良いという話もあります。加古川には播磨臨界道路が計画されていますし、そこにアクセスがいいところで工業団地を作ること考えられないことはないですし、加古川市の職員であればそういったことも考えるでしょうし。明石の優良企業を牛蒡抜きにしていくこともありえないことではありません。それぐらい企業側としても切羽つまっているということ認識していただきたいと思います。</p>
会長	<p>以前みたいに企業誘致するわけではないと思います。グランドデザインの考え方、要するに明石はこういう市であり、こういった所に立地していることが、ESD 投資の話がされましたが、企業の強みとなっていくことが本来的には良いと思っています。</p> <p>よく今、エスカル消費、つまり、倫理的な消費で、例えば、国際的な問題であるウイグルの人権抑圧のところの商品を買うのはいかなものかと、国だけでなく世界的な動きになってくる中で、企業が SDGs を推進している明石市と、環境に極めて配慮しているところが一致することが企業にとってもブランドになります。加古川にいくほうが安く済むが、そうではなくそこに企業の価値があつてという関係は難しいものですか。</p>
A 委員	<p>特に加古川がどうこうというわけではなく、企業も環境に配慮した建物を建てたいが、建替ができないために、古い建屋のままで資材を置く場所がない、その上雨漏りしているといった状態があります。生産性の問題だけではなく働き方改革や従業員を大事にすることに対しても突き上げられる立場なので、そういったことをきっちりしていきたいという意欲もあります。あわせて建替ができ、耐震性があり、安全で、なおかつ CO2 排出が少ない環境に配慮したものを作りたいという意識もあります。前に話したように、古い工場が近隣にどのように映っているのかと心配しており、周りから見ても環境に配慮し、景観に応じた、きれいなものを建てたい意欲もあるので汲み取っていただけたらと思います。</p>
会長	<p>ネット・ポジティブ・インパクトを一つの原則として、その上で、人工島を中心として緩和をしていく。あわせて、市街地においてもプラス住民との関わりや地域づくりとの関わりの中で緩和できるという方向に持っていきたいと考えています。まずは、</p>

発言者	内容
	人工島でというよりむしろ、原則を定めた上で緩和をしていきます。人工島についてはこの原則、市街地についてはこの原則で緩和していきますという方向でまとめていきたいと思います。
D 委員	ネット・ポジティブ・インパクトという言葉はすごく魅力的ですが、日本語を考えませんか。
副会長	<p>「ノー・ネット・ロス」も英語です。土でネットでロスがないという事なので、おそらく日本語訳は今はないのではないかと思います。</p> <p>これから、例えば、プライシングとってカーボン排出するとお金がかかるような時代になってくると思います。2030年までに46%削減という国の目標をもし真剣に達成しようとしたら、そういう流れかなと思っています。効率の良い建物は、今は普通の建物より高いかもしれませんが、LEDの電球と一緒に買う時は高いが光熱費が安いというように、税金の使い道のお話も出てきていますが、そういうところに背中を押してあげるような形にすると、後に明石市全体の排出が減りますので、将来的には悪いことにならないと思っています。ネットでポジティブなのでそういう風になるのだと思います。</p>
会長	<p>先ほど46%の話が出ましたが、小泉前環境大臣が掲げたものですが、2050年のカーボンニュートラルを菅元総理大臣が掲げた数字からきているものですが、日本の公約になっています。世界の通説です。</p> <p>いろんな意見をいただきましたが、その方向で考えたいと思います。人工島の場合、15%という話がありました。私は、1%はさすがに低すぎるのかな、10%程度かなと個人的に思っています。</p>
F 委員	同じ人工島の播磨町との兼ね合いがどうなるのかが気になります。播磨町と合わせる必要はないということですか。
会長	播磨町は、人工島が緑地面積が1%以上、環境施設面積も1%以上、町内全域でいくと、工業・工専地域で緑地面積が10%以上、環境施設面積が15%以上となっています。どういう経緯で決められたのですか。
事務局	どういう経緯かまでは把握していません。
会長	播磨町と明石市と合わせなくても問題ないですか。
F 委員	同じ条件の人工島で播磨町側が1%、こちらが別に決めて良い問題ですか。そのことよって企業が出て行くことはありませんか。
会長	制度上、率を分けることは可能です。そのことによって企業がどうなるかというところははっきりしてないところです。
A 委員	この会で数字まで決めるものなのかよく分かりませんが、人工島の立ち位置としてまずは5%までいって問題ないのではないかと思います。さらに、そこから1%までいっても問題ないのではないかと思います。その上で、人工島の公園部分は丁寧に手を入れて整備されたら問題ないかと思います。
会長	第2回の資料6に県内の工場緑地面積率が出ています。地域未来投資促進法に基づ

発言者	内容
	く緩和を行っているところでは、丹波市が緑地面積率 10%以上、他は大体 1 %以上です。
A 委員	繰り返しになりますが、二見人工島については、一旦 5 %までいって、その後、地域未来投資促進法に基づいて 1 %までいって問題ないかと思います。公園部分は手を入れて整理していただく方向で問題ないと思います。
D 委員	この検討会には緑地の専門家が 1 人もいないわけで、例えば、15%と 10%でどれだけ環境保全機能が異なるのか判断できません。面積より質ということで質を考えようとしても、現在、人工島の緑地にどんな樹種がどんな植え方をされているのか全然情報がない。どうすればもっと環境機能があげられるというところが緑地の専門家であればおそらく分かると思うので、そういった意見と併せてパーセントを決めていかないと数字だけの議論にしたのではいけない。
会長	<p>先ほど申し上げました方向性で、地区指定という考え方ができますので、人工島と市街地は分けていきましょう。</p> <p>原則は、まだ日本語ができていませんが、ネットポジティブインパクトで市全体的にやっていく。さらに、市街地については、加えて地域との関係を含めて考える。地域協定みたいなものが考えられるという話も出ました。</p> <p>その時に、ネット・ポジティブ・インパクトにどのようなものが含まれるのか、環境の質や CO2 の吸収量などが指標になるのか。そういうものを加えて、市街地の工場についても緩和の方向ができるのではないかとといったまとめにしたいと思います。</p> <p>数字を出すのは難しいのではないかという声もあったので、緑地の専門家に聞いていただくと科学的根拠がでてくるかもしれないのでよろしいのではないかと思います。</p>
C 委員	方向性は良いと思います。人工島は途中で分かれています、それだけを見たら 1 %にしても良いのではないかと。根拠が分からないので、専門家の意見を聞いた上で案を出していただいたほうが良いかなと思います。
副会長	<p>積極的環境保全や積極的代償、マイナスになった代わりにプラス、代償ミティゲーションと言いますが、それとくっついている言葉です。</p> <p>やったことによってプラマイゼロではなくさらに良くなる。北欧のあるハンバーガーチェーン店は、作るときの CO2 排出をゼロにするレベルよりも多く代償ミティゲーションすることで、結局食べると結果的に CO2 が減る計算になるような商品を作っています。</p> <p>日本語訳は今まで聞いたことがないので、明石市が作る手もあります。決して緩和がマイナスにならないことが大切だと思います。</p> <p>明石のアンケートをみると、自分の立場に立っただけの一方的ではない意見が多くあったので、すごく良い住民だなと思いました。人気がある明石市なので、このようなこともやっているとすれば面白くさらに人気になるかなと思いました。</p>
会長	CSR の考え方から CSV、マイケル・ポーターが提唱している議論で、企業も積極的に

発言者	内容
	<p>価値を作り出していく、その価値を作り出していくときはどうやって作り出していくのかというと、それは地域と関係があると言われていています。例えば、明石に立地していることがブランドになる。明石は地価をみると住宅地としてのブランドの価値は高まっていると思います。これからの企業は、地域貢献いわゆる CSR だけでなくどうやって企業の価値を高めていくのか、それは企業だけではなく、三方よしがといたところがないとこれからの企業は持続性が難しいのではないかと思います。ESD 投資とも共通する考え方ではないかと思ひます。できればその方向にいていただきたいというのが私の希望です</p>
A 委員	<p>企業も同じような考え方をお持ちです。明石は子育てを中心に非常に人気のあるまちになっています。ただ、大学になると他所に出て行ってしまいます。その子達が帰ってくる受け皿の企業がないというのは寂しいことです。企業にとっても明石で工場を構えているというのは、これだけ人口がいるので労働力の確保という部分もあります。できれば明石でそのまま居続けて企業活動したいという思ひもあるので、どうバランスをとっていくのかという状況です。自然環境に良く、従業員の労働環境にも良いものを提供したいという思ひもあります。</p>
会長	<p>だいたい意見をいただきましたので進行を終わらせていただきます。</p>
事務局	<p>専門家等の意見を聞いて、改めて次回の会議の案内をさせていただきます。</p>
<p>4 閉会</p>	